

# 開放冷却水系で亜硝酸塩効果持続

ダイヤアクアソリューションズ

特許取得の  
水処理剤  
**蓄熱槽向けにも提案**



藤本 和富 常務



尾崎 文一 理事

水処理薬品ブランド「コントライム」シリーズを展開する工業薬品メーカー、ダイヤアクアソリューションズ（社長＝浦橋亘氏、本社・東京都千代田区大手町2-6-2）は、昨春から開放冷却水系総合水処理剤で亜硝酸塩を使用できるコントライムシリーズの新製品を投入し、昨秋特許を取得した。本年から同製品を開放水系空調設備や蓄熱槽向け水処理用途で本格提案する。

ラインアップは開放冷却水系向けのコントライム「T-3500」、蓄熱槽向けのコントライム「K-6300」の2種類。亜硝酸塩の防食効果を阻害する亜硝酸酸化細菌（ニトロバクター等）の増殖を抑制し、防食効果を長時間持続させる特許技術を採用した。これにより含有する亜硝酸塩

が安定して存在できるため、鉄表面に均一で強固な不動態皮膜を形成。鋼材の腐食を抑制するほか、金属表面を清浄に保つことで二次的腐食の誘発が防止できるといふ。

藤本和富常務は「亜硝酸塩は密閉冷温水系では高性能の防食剤として知られるが、ニトロバクターが入り込むことを理由に従来開放水系で使用することはできなかった。当社の特許技術を用いることで開放水系でも亜硝酸塩による水処理が可能となる。当社は製品開発型メーカーの姿勢を貫き、こうした独自開発製品を核とした冷温水系のソリューションビジネスを強化していくと話す。

小型冷却塔での薬液注入を容易にした総合水処理剤、コントライム「パックミニ」も今春発売する。小型冷却塔の水処理管理は一般的にパック型固形剤が主流で、適切な薬剤制御ができず効果が限定的だった。しかしパックミニは独自の滴下機

能で薬液を注入することができ、装置設置も容易。同社は既存設備の効率改善などで売り込む。水処理剤製造に関しては、以前は親会社の三菱ガス化学が担当していたが、2010年秋からダイヤアクアソリューションズに事業移管された。これによりダイヤアクアソリューションズはメーカー機能を担い、研究開発型ビジネスに本腰を入れている。

三菱ガス化学は09年、空調用水処理剤について、化学物質の発がん性を測る Ames 試験で変異原性が陰性のノンヒド

ラジン製品の開発に成功。ノンヒドラジン製品のさきがけ「コントライム M-1000」シリーズを開発した。その進化形として環境 ISO 対応、変異原性対策を強化した製品、コントライム「M-2000」を開発、製品化した。M-2000 は pH 値が 5・5 の弱酸性。皮膚刺激性が少なく安全で環境にやさしい高性能水処理剤。一液で腐食防止、スケール防止、スライム抑制、レジオネラ属菌抑制を可能とすることから「既存設備で旧来の水処理方式で効果が弱まって

いる案件や、環境に配慮した薬品を求められる案件などで多くの支持を獲得している」（尾崎文一理事）。

同社は M-1000 シリーズで用いる薬品使用特許を取得。今後は特許技術を背景にさらなる拡販を目指す。

◆  
ダイヤアクアソリューションズは大阪営業所を移転し、3月19日から新事務所を営業を始める。新事務所所在地は大阪市中央区今橋4-4-7。電話06(62229)5600、FAX06(62229)7755。